

## 山中饒舌

僕の胸の中にはもう一人の僕がゐます  
向う側から同じ果実をねらつてゐるのです  
熟れた一つの果実は美しく色をつみ重ねてゐます  
葉かげにまるみをのぞかせてゐます  
彼は僕と全く同じ体格です  
僕が手をのばせば彼も手をのばすにちがひありません  
まるで睨み合ひのやうになつてゐます  
その上彼の胸の中にはさらにもう一人の僕がゐて  
おどろいたことに  
いまや果実に手をのばして  
もぎとつて食べてゐるではありませんか  
むしやむしやとうまさうに食べてゐます  
くちびるから垂れ下つてゐるのは  
絵の具のやうな果実の皮です  
吐き出してゐるのは果実の茶色の種です  
地に落ちた種は双葉となり  
するするのびて青葉から開花し繁茂して  
やがて枝もたわわに果実を実らせてゐます  
僕や僕の胸の中のもう一人の僕の対立をよそにして  
無限の充溢の中に 彼のみの生があるやうです  
一つの果実をねらひあつてゐる僕ともう一人の僕は  
ただ向ひあつて立つてゐるばかりなのです  
どうしてかういふことになつたのだらうか  
僕が考へるやうに  
もう一人の僕も考へるのですが  
いつもでもこの状態がつづくのかもしれない  
無限にこのままなのかもしれない